回覧

「石神台ガーディアン」2020年9月報告

2020（令和2年）年9月22日
石神台ガーディアン代表　中野靖久
編集者　小野修司

1） 団員数

昼間合同巡回実施者：	２８名
夜間合同巡回実施者：	２３名
青パト巡回実施者：（同乗者を含む）	３名
以上のどれかの巡回をしている人数：	５１名

個人的に巡回している方70名を加えると、トータル121名です。
やはり夜巡団員が少なくなっています。　　団員募集中！！

2） ８月16日～9月15日の巡回実施状況。（１丁目は６月から自主巡回になりました）

✓　合同歩行パトロール （自分の住む丁目を中心に実施）

	昼		夜	
	実施日数	延べ参加者	実施日数	延べ参加者
１丁目			９日	２９名
２丁目				５８名
３丁目				２６名
全体				１１３名

※昼間の巡回は各丁目とも9月25日から再開となります。

暑く長い夏が終わりやっといい季節が巡ってきました。いよいよ巡回がしやすい季節になりました。

しかし、相変わらずコロナウィルス感染症の終息が見えず、密にならないように気を付けながら、各丁目とも自主巡回です。

青色回転灯装着車によるパトロール　（石神台内を現在は3台の登録車で随時実施）

９月：実施車両数：２台　実施回数：１４回

延べ走行時間：１１時間０５分　　走行距離：９０．５km

3） 不審車両と区別するステッカーの表示について

	調査した夜間８日間			
	路上駐車台数	ｽﾃｯｶｰ有数	ｽﾃｯｶｰ有比率	９０%を目標にしていますので住民の皆様に更にご協力をお願いいたします。
１丁目	２９台	２５台	８６．２%	
２丁目	１２台	１０台	８３．３%	
３丁目	１３台	１１台	８４．６%	
全体	５４台	４６台	８５．２%	

4） ガーディアンの気持ち…「夜巡回の不思議」

暑い夏の夜も、寒い冬の夜の巡回も、一人ではとても出来ないと、私はつくづくと思います。
一緒に回ってくれる仲間がいるから、暑い夜も寒い夜も頑張れる。そして言葉は聞こえても来ないけれど、「今日も地域の為に巡回してくれるガーディアンの人達がいるから、地域の安全・安心が守られている」そんな声が聞こえてきそうで、今日も頑張れる。
とりわけ、いつも一緒に巡回してくれる仲間は、何も言わなくても、いつもの時間に、いつものコースを、いろいろな話をしながら巡回するのは暑さも寒さも忘れて楽しく回れる。
とても不思議に思える巡回が長く続くことを今日も願って巡回しています。

（3丁目　テツ＆ゴン）

5） 大磯警察より

＊9月15日現在でオレオレ詐欺は12件、約2，500万円になりました。件数の12件は昨年1年間と同数になりました。金額は1，500万円ほど少ないですが、相変わらず毎月のように発生しています。これだけいろいろな機会に注意をされていますが、無くならないのは不思議でなりません。ひとり、ひとりが注意するより手だてがありません。気を付けましょう。

＊その他、今月は特に大きな出来事はありませんでした。。

6）編集部より

＊　ガーディアン月報は今年11月で200号になります。（16年8か月で到達です）
そこで200号記念特集号を計画しております。昼・夜に巡回している方も、していない方も何か一言ずつ、「ガーディアンの思い」を書いて頂きたくお願いします。

＊　今月25日から昼間の巡回が始まるようですが、まだ正式に巡回中止が解除された訳ではないので、密にならない様な巡回と帰宅後は手洗い、うがいなどを行って下さい。

＊　昼・夜の巡回者には来月末より、直接取材に伺いますので宜しくお願いします。
別途中野代表より、ガーディアン回覧でお願いの案内を出して頂きました。
題材、内容は問いません。是非、皆さんに何か書いて頂きますようお願い致します。

挨拶で犯罪なくそう石神台

石神台ホームページ

https://ishigamidai.com　海の見える街　大磯町石神台　検索

大磯警察　生沢駐在所だより（ふれあいパトロールたかとり）は：

http://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/69ps/69pic/69004_12.pdf

7）　番外・付録・おまけ…「高校時代の友人、栗原景太郎さんの記事」

（2020．8．23 読売新聞　編集手帳）

いまは昔というべきか、さかんに冒険家たちの快挙が報じられた時代があった。堀江謙一さん、植村直己さん…日本人もやるもんだと感嘆した人は多いだろう。

◆半世紀前の1970年もまたしかり。5月に三浦雄一郎さんの「エベレスト大滑降」。続いてヨットの男女3人が世界一周を成し遂げる。海国日本のプライドを胸に航行すること1年3か月、8月22日未明に帰還した。

◆艇長・栗原景太郎さんの『白鴎(はくおう)号航海記』を読むと、のびやかな青春記の感がある。世界の航海家を阻む難所マゼラン海峡で、いったん錨(いかり)を失う。けんかもしたが、明朗さと冷静さを失わない。翌23日の本紙は〈科学に裏打ちされた「綿密な計画と周到な準備」〉をたたえている。

◆さて今日、日本社会は図らずも、大変な航海のただなかと見えなくもない。新型コロナを抑えこみ、経済活動と両立させる。これこそ世界中の国が突破をめざす難関中の難関に違いない。

◆一口に冒険と呼んでは語弊もあろう。ただ、むやみに落ち込まず、前向きに挑戦したい気がする。むろん冒険は博打(ばくち)にあらず、「綿密な計画と周到な準備」が肝心なのだが。

《編集者補足》

栗原景太郎さん（君）は高校時代の親友です。今でも年に2，3回会っています。昨年11月には歌声サロンにも来てくれました。彼は高校時代から、自由人のようでした。1年浪人後、神戸商船大学に入りますが、ヨット三昧。

卒業後ある大手の海運会社に就職しますが、2年後には、「ヨットで世界1周するので、会社を2年ほど休ませてほしい」と願い出るのです。勿論会社は「とんでもない！」と拒否すると、「それでは辞めます」とあっさりと退職してしまい、大学時代の友人を口説き落として、エンジン付きの小型ヨットを作ったのです。そして望み通り、1969年（昭和44年）5月5日、江の島から3人で出航したのです。

編集手帳に載っていた、男女3人のうち女性一人は、あの南極大陸探検家の白瀬中佐の弟の孫娘（白瀬京子さん）でした。

尚、彼は今でもヨットの関わる仕事をしていて100歳まで働くと豪語しています。彼の言動は常にユニークで私に文才があれば小説に書きたいくらいなのです。

〈追記〉

彼（栗原景太郎君）の書いた『白鴎号航海記』は誠に面白く、もし、読みたい方がいたら、お貸しします。